

ワーケンチン教授滞日中の随行印象記

前田 隆*

Prof. Warkentin's Profile in Japan

Takashi MAEDA

Faculty of Agriculture, Hokkaido University

1. はじめに

Warkentin 博士は筆者が1668~1970年の1年半のカナダ McGill 大学 Macdonald カレッジに留学中に指導を受けた教授であるが、「Introduction to Soil Behaviour」や最近の「Soil Properties and Behaviour」の著者としてとくに前者の訳本を通して、日本でも御存知の方が多いと思う。

かねて来日の希望を持っていたので、日本学術振興会の外国人招へい研究者(短期)の制度に応募し、多くの人の御協力により、幸い採用された。はじめ4カ月滞日の予定で申請し、許可されたが、教授の都合でわずか1カ月の滞日となり、スケジュールの作成に当って、本人の希望も入れたので、非常にきつい日程となった。

講演の日程は「土壌の物理性」32号の32頁に記載の外に、九大でも講演したので合計9回になった。

講演以外に訪問、見学したおもな場所は、北海道大学低温研究所、同工学部土質工学教室、北海道開発局土木試験所、苫小牧市植苗の樽前系火山灰断面、支笏湖、洞爺湖、昭和新山、有珠系火山灰断面、登別温泉地獄谷、滝川畜産試験場、北上市村崎野の火山灰断面(イモゴライト)、函館市根崎の土壌断面、北農試験作部(芽室)の土壌断面、釧路副港(魚市場)、摩周湖、計根別の摩周系火山灰断面、根釧農試、阿寒湖、屈斜呂湖、層雲峡、阿蘇火山など火山灰断面、火山およびカルデラ湖を主とし、他に東京、京都、大分の神社仏閣を見学した。滝川畜試を除き全部同行したので、教授の見学物に対する感想やまた筆者の教授についての様々の印象を得たが、思い出すままにそのいくつかについて述べる。

2. 精力的な活動

滞在中3日、終り3日休息日をかねて、北大で研究指導も少しして貰う積りが、東北、九州にも旅行したい旨希望したので、遂に一日も休息なしの日程を組んだ。筆者がカナダで得ていた印象から、果してこのハードなスケジュールに耐えられるかと思ったが、楽々とこなしたばかりでなく、飛行機、ホテルでも講演原稿、スライド



の整理、筆者が人から依頼された英文論文の閲覧訂正など極めて精力的に活動した。とくに9月17日農技所で午前講演、午後ルームクーラーのきかない30℃以上の部屋で火山灰のパネルディスカッションを長時間熱心にやったこと。9月26日帰国寸前まで、朝8時から行動を起し、カナダ大使館、京王プラザホテル、秋葉原の電気店、寛永寺、都立美術館で一水会展見学、その間日本最後の昼食を1時間楽しむという風に、時間を極めて有効に使用し、しかも楽しむことは楽しむという態度には感心させられた。

3. 見学態度

北農試験作部では宮沢室長に土壌断面を見せてほしいと前以て頼んでいたが、土のことだけでなく肥料その他あらゆる試験成績のことを聞くので迷惑をかけてしまった。他の見学地や車中でも種々のことについて議論をした。その広範な知識に改めて感心すると共に、機会を捕えてあらゆる知識を深めて行く態度は立派というより外ない。私などは写真をとる時、無造作に写すが、ワーケンチンは天候、構図などを慎重に考えて撮影し、時には

* 北海道大学農学部

断念し一枚も無駄にしないという態度で時間がかかるので急いでいる時にはいらさせられた。とくに阿蘇見学で通常の展望台で写真をとらず、中岳に向う途中から反対側の大カルデラを写したのは、カルデラが最もよく写る構図を探していたことを示している。

神社仏閣の見学では、この方面の知識にうとい筆者は、神社仏閣は嫌だから質問しても答えられないと予め断っていたが、それでもどンドン質問してきて全く弱ってしまった。大分の富貴寺では岩田進午さんの奥さんの説明に鋭い質問をして、奥さんに迷惑をかけた。京都みたいな国際的な寺などではもっと詳しい外国語の案内板を立ててくれないと困ると思うのは筆者のみのひがみであろうか。

4. コミュニケーション

英語は一つの単語で色々な言葉を表わすので日本語に書く時困ってしまう。九大の黒田正治氏にワーケンチンが日本人はコミュニケーションの言語としてどういう風に考えるかと質問し、大分論争したが、この時は情報伝達の手段としての言語のことであるし、私は今回日本で多くのコミュニケーションを得たと言った時のこの語は、多くの人と交際し知人を得たと解すべきであろう。前者の場合、現在最も広く理解されるのは英語であって、日本人の学問水準は非常に高いのだから、もっと英文で外国雑誌に論文を投稿し、世界の人に知らせる義務を日本人は持つという見解であった。後者では、日本の多くの研究者と知合いになったことを非常に喜んでいて。要するにコミュニケーションは非常に大切にすべきであるということであろう。

5. 酒席でのこと

カナダで女性がサービスしてくれる酒場など無いに等しいので、来日したら必ず連れて行こうと思っていた。8月30日北農試の講演見学終了後、札幌のオリンピック施設を見せ、夕方早く筆者の行きつけの小料理店に上りこんだ所、時間の早かったことと土曜日ですいていて5人の女性で歓待してくれた。しゃみせん入りで歌をいろいろやって貰ったが、この時のワーケンチンの感想は「生れてこの方、女性にこんなにもなして貰ったのは初めての経験である」ということであった。

この外4回ほど飲む機会があったが、議論をするか女性に質問をするかのどちらかであった。カナダでパーティなどの時、議論していることなどなかったので、不思議に思い、飲んだ時議論するのは好きか、カナダ人やアメリカ人で飲んだとき皆議論するのかと聞いたところ、私は飲んだとき議論するのが好きだが、こういうこ

とをするのは少数であると言う返事であった。また女性に結婚したら子供を何人つくるか、両親と一緒に暮らすかなどと一生けん命聞いているので、何でそのようなことを聞くのかと問うと、これから世界はどう変わっていくかの判断材料にするのだということであった。宿舎では夕食前か食事中、大体ウィスキーを飲んだが、日本酒も好んだ。ただし日本酒は大量に飲むと頭が痛くなるとのことで、チャンポンに飲むことは気にしなかった。酒類は食事の消化を助けるために飲むという話で、昼はビール、夜はウィスキーというのがカナダでの習慣で日本でも大体実行した。

6. 食物のこと

釧路に着いた時、魚の水揚げをみたいというので、副港に連れて行くと、一時間半もうろうろと見学していて、外人は魚のにおいが嫌いな筈だと聞いた所、私は魚が好きだということで、そのあと生鮭を大変喜んで食べた。

その他えびや魚の天ぷら、フライをとくに好んで食べ、ほとんど日本の通常の食事で間に合ったのには助かった。ただ朝食はコーヒーにトーストという習慣を守ったので、ホテルなどではアメリカ風の薄いコーヒーが出るのでよいが、喫茶店ではコーヒーは強いので、以後喫茶店ではコーヒーを注文しなくなった。

7. 日本旅館のことなど

ワーケンチンは一度だけ日本旅館に泊りたいと希望していたので、弟子屈温泉で一晩泊った。温泉の大浴場には多分入らないと思ってその前夜はバス付きの旅館に泊ったが、バスなど使わず、佐々木教授と私と同様、朝晩2日も温泉の大浴場を好み、スリッパ、浴衣を好んだ。しかし他の外人ではこうはいかないかもしれない。何せ好奇心が強くて福岡のホテルではマッサージを頼んでくれというので、言葉も通じないのにうまくいくかと思ったが、翌朝聞くと、ちゃんとやって貰って疲れがとれたとさっぱりした顔をしていたのには恐れ入った。

8. 英会話のことなど

ワーケンチンの英語は非常にきれいで判り易い。もっとも学振の阿部美哉人物交流課長との会話のように、両者がものすごいスピードでいろいろな話をしていると、小生など判らなくなってしまう。阿部課長のような英会話のよくてできる日本人がいるのに感心した。カナダ大使館で科学参事官との会話に同席したら、この人のいうことがほとんど判らない。後で聞くと南部オンタリオンの代表的な発音であるというので、貴方の英語はどこのも

のだと聞いたら、北米の標準語とのことであった。滝川畜試に北大農学部教授と同行して、意外に英会話のできる人が多いと言っていたが、これは私がカナダに行った時、ほとんどしゃべれなかった時の印象が残っていたため、筆者の責任である。筆者は今でも聞く方は何とか判るが、しゃべるのは大変下手なので、とくに英会話のできる日本人のいる所では、いよいよしゃべれず、多くの方に迷惑をかけた。誌上を借りてお詫びします。

9. その他思い出すま

北大の岡島教授はワーケンチンに冗談を言ったり、ひにくったりするので、すっかり好きになって帰国前にまた会談した。適当に冗談などを言ってリラックスしてつき合った方がいいということであろう。また大体一日つき合ると、その人の人物について適格な判断を下すので油断がならないと感じた。小生も飲んで議論をすると不思議に下手な英語で論争するが、環境破壊の話で、大雪縦貫道の話になった時、道路を通すと全部そこに車が集ってくる。他に道路があるのだから観光地には行き止まりの道だけ作ればよいという見解であった。またすべての講演をきいて、講演のうまさに感心した。日本の高度成長はいつまでも続く筈はない。何処の国でも必ず限界がくるし、高度成長はいろいろの点で良くないと批判していた。滅多に怒ったことがないが福岡からの婦札

のときから、航空機の荷物チェックでワーケンチンの荷物になると、警報が鳴り、帰国時千歳空港では厳重に調べられて、遂に彼は大声で怒った。

拙文を閉じるに当り、ワーケンチン教授滞日中にとくに御世話になった方々の名前を列記して深く感謝の意を表したい。日本学術振興会、東京大学の竹中肇教授、足立忠司博士、地水学講座の方々、農技研江川友治所長、寺沢四郎室長、岩田進午博士夫妻、北川靖夫氏、久保田徹氏、井上隆弘氏、北陸農試飯村康二室長、東京農工大浜田竜之助助教授、八幡敏雄農業土木学会長、須藤清次土物研会長、京都大学丸山利輔教授、同教室の方々、岡山大学長堀金造教授、九州大学田辺邦美教授、黒田正治助教授、和田光史教授、北農試出井嘉光部長、仁紫広保室長、志賀一一室長、宮沢教雄室長、山崎慎一氏、北海道大学工学部の北郷繁教授、土岐祥介助教授、三田地利之助教授、同低温研究所木下誠一教授、同農学部佐々木清一教授、岡島秀夫教授、森樊須教授、梅田安治助教授、佐久間敏雄助教授、相馬尅之氏、北海道開発局土木試験所阿野文弘所長、佐々木晴美室長、久保安室長、岸洋一主任研究員、日本工営松野正博士、矢田部権治郎氏。その他名前漏れで失礼した方もあると思うが、非常に多くの人々に御世話になった。また拙稿を書くことをすすめて下さった安富六郎編集委員長や編集委員の方々に感謝します。

土 壌 物 理 用 語 事 典 付 デ ー タ 集

土壌物理研究会編

目 次

- | | | |
|----------|-----------|---------------|
| 1. 土壌一般 | 6. 土壌の色 | 11. 灌漑・排水・干拓 |
| 2. 土壌構造 | 7. 土壌の力学性 | 12. 土壌改良・土層改良 |
| 3. 土壌水 | 8. 水文 | 付データ集 |
| 4. 土壌空気 | 9. 土壌侵蝕 | 1. 土壌群別物理性 |
| 5. 土壌の温熱 | 10. 機械作業 | 2. 土地利用別物理性 |
| | | 3. 特殊土壌の物理性 |

A-5判 上製206ページ
定 価 1,600円

発 行 所 株式会社 養 賢 堂
振替東京25700 電 話 (814) 0911